

1 学校教育目標

【教育目標】

校是「天下第一関」の下、高い知性・豊かな情操・強い意志・健やかな身体を育み、円満な人間性と社会性を備えた真に次代を担うにふさわしい人材の育成を目指す。

- ・知・徳・体のバランスの取れた人間形成をベースに据えつつ、生徒一人ひとりの進路実現を目標に教育活動を推進する。
- ・3年間を見通した教育活動を推進するために、全教職員で協働して取り組んでいく体制の強化を図る。

【中・長期目標】

- ・単位制に基づく特色ある教育課程を編成し、多様化する生徒の進路選択に適切に対応することにより、生徒一人ひとりの進路実現に努める。
- ・学習習慣の確立による学力向上と授業研究・授業評価の推進による授業改善に努め、地域の期待に応え得る進学実績の向上を図る。
- ・積極的情報発信及び地域との連携による、開かれた学校づくりに努める。

【令和3年度重点目標】

「探究心・洞察力・創造性の醸成」

- ① 学校運営: 社会の変化を的確に捉え、教職員の協働体制の強化及び家庭・地域・関係機関との連携により、「信頼される学校」づくりを目指す。
- ② 学習指導: 主体的・探究的な学びを通じた思考力や判断力の育成により、更なる学力の向上を図る。
- ③ 生徒指導: 自主・自律の校風を尊重しつつ規範意識を高めることにより、豊かな人間性を育てる。
- ④ 進路指導: 3年間を見通した系統的・組織的な指導により、希望進路の実現を図る。
- ⑤ 学科間連携: 各学科それぞれの長をを活かし伸ばすとともに、学科間の連携により、教育の質の向上を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

【学校運営】

(総務)

- ・校外研修については、昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響により、国内日帰りでの実施となったが、今年度は、国内で可能な限りの研修内容を検討したい。
- ・PTA会長の下、様々な改善に取り組むとともに、会員が協力して進路情報交換会等、各種PTA活動を推進している。
また、PTA新聞については、委員の皆様と編集委員会を重ね、新しい企画に取り組むなど、きめ細かい紙面作りができています。
- ・PTA役員の見出し方法について、役員の方々から改善の要望が上がっているため、役員会で検討され、新しい見出し方法を説明・実施し、円滑なPTA活動が図れるようにする。

【学習指導】

(教務)

- ・令和4年度実施の新学習指導要領に基づいた本校の教育課程を、昨年度編成した。その後、大学入学共通テストの詳細が発表され、編成した教育課程では対応の難しい点が出てきた。
- ・上位層向けの課外や個別指導を多数新設し、学力層に応じた手立てを充実させることができています。
- ・アクティブ・ラーニングの活用に伴い、多くの新たな授業展開の手法が見られている。
- ・教科「探究」等の同時展開授業や行事の増加のため、時間割変更が難しい状況になっており、振替授業等の見直しや工夫(探究科目・総合的な探究の時間・LHR等の担当者打合せ)をして対応する。

(進路指導)

- ・進路指導や教科指導に係る校外における教員研修の復命件数は増加していたが、昨年度は県外出張自粛の影響があった。教科内における情報共有を図ることはできている。今後は、教員研修の機会を拡充(各教科1名→2名へ増)し、授業力のより一層の向上を図る。

(各学年)

- ・生徒・保護者向けのアンケート結果にあるように、課題が多くなり過ぎている傾向が続いている。各学年の担当教科間で連携し、更に削減の方向で調整を図るなど徹底していく。
- ・各学年が、考査前に補講を計画的に実施している。各HRでは、基礎学力の定着のため、朝学や日頃の授業の重要性を粘り強く指導している。
また、特別支援教育推進教員を中心に、個別の支援計画も作成されている。
- ・毎日の学習時間の記録を継続して行い、学習状況を把握している。学習時間の見直しを定期的に行わせていく。
- ・朝学やすきま時間の学習等、時間を有効に活用することを意識させる。

【生徒指導】

- ・全校終礼等、全校生徒が集まる場において、生徒会が主体的に呼び掛け、生徒同士で時間厳守や集合時のマナー等に関する意識向上に努めている。
- ・昨年度から登校指導を週1回に増やし、計画どおりに実施することによって基本的生活習慣の向上に努めている。
- ・「いじめのアンケート調査」を実施するとともに、教育相談部が実施する生徒実態調査等も利用し、学校全体でいじめの未然防止、早期発見に取り組んでいる。また、何らかの兆候が見えた場合には、いじめ対策委員会を開き、担任、学年、教育相談部と連携し、解決に向けて取り組む体制を取っている。
- ・配慮を要する生徒が多くいるため、教育相談部や生徒指導部など関係教員間で情報共有を行うだけでなく、保護者との密な連携が求められる。SNS等インターネットへの書き込みによる問題もあり、今後も継続して注意喚起や指導をしていく。
- ・HR活動や学校行事、部活動等を通して、協調性や積極性を身に付けるように支援する。担任や授業担当者が日頃の生徒の状況を把握し、良好な人間関係を築くことができるように促す。

【進路指導】

- ・面談等の個別指導は円滑に実施され、生徒の適切な目標設定の一助となっている。個々の生徒の志望と適性や能力を把握するとともに、希望する進路の情報収集をする力を身に付けさせ、短期的目標、中期的目標、長期的目標を立てさせる。
- ・例年、職場体験学習については、医療系を中心に多くの生徒が参加していたが、昨年度は中止やオンラインによる実施が多かった。
- ・NCA(総合的な探究/学習の時間)は、各学年とも概ね円滑に運営できているが、生徒の進路意識を更に高めるよう、教材等に工夫を重ねた。
- ・「進路だより」の発行や進路講演会の実施等、進路意識の高揚に寄与するよう、適切な進路情報発信に努めている。今後は、保護者に対する情報発信の手立てとして、本校ホームページ等を積極的に活用する。
- ・成績上位層と下位層に対する手立ては充実してきている。今後は、中位層に対する対策を進めたい。
- ・九大オープンキャンパスや3校(本校・小倉・東筑)合同学習会等を通じて、他校の生徒の様子を知り、刺激を受けて高い進路意識を持つことができていたが、昨年度は実施できなかった。
- ・大学観、職業観の確立のため、外部業者によるプレゼンテーションやディスカッションに関する講演の充実を図る。
- ・模擬試験分析について、生徒への配布も視野に、分析方法を検討し充実を図る。
- ・ポートフォリオの充実や調査書の様式変更に向け、情報部との連携を密にする。
- ・各学力層に向けた課外講座を設定したり、各教科と連携して「課題」の精選を図ったりすることで、時とニーズに合った指導が行えるようにする。

【健康・安全】

(保健体育)

- ・昨年度からのHR等の暖房方法変更(ストーブ→エアコン)に伴い、感染予防対策への更なる注意喚起ができています。
- ・健康診断の結果を速やかに配付することにより、治療率の向上へとつながっていたが、昨年度は健康診断の終了が遅くなり、治療率が悪かった。
- ・「保健だより」や学校保健委員会を通して、学校保健活動の様子を周知することができた。
- ・要配慮生徒の情報共有に引き続き努め、更なる協同健康管理体制を確立していく。
- ・体育の授業や部活動における怪我について、事前のミーティングや情報共有を行い、危機管理意識を高めて指導に当たる。また、怪我発生時の初動対応、医療機関への連絡、保護者への連絡、その後のケアについて、関係者と情報を共有しながら進めていくことを徹底する。

【図書・情報】

(情報)

- ・昨年度導入された統合型校務支援システムについて、情報部を中心にメンテナンスを充実させて、全体へ活用の普及を図る。
- ・個人情報保護・セキュリティには細心の注意を払い、適宜適切な情報を提供している。

(総務)

- ・図書だより・図書カレンダーを定期的に発行するとともに、読書会は、感染症対策を講じながら、生徒が中心になって企画運営し、活発な会となっている。

【教育相談】

- ・支援を必要とする生徒に対する関係教員間の連携や情報共有は概ね良好である。今後、生徒の情報を誰でも必要なときに閲覧できる仕組みを継続し、教員間の情報交換を進めていく。
- ・定期的な教育相談部連絡会において、効果的な支援の方法を検討している。
- ・特別支援教育に関する啓蒙活動が進み、教員全体の意識が高まっている。今後、校内での研修会や様々な場面をとおして更なる意識の向上を図りたい。
- ・スクールカウンセラーの高度な見識と技量により、効果的な相談が遂行されている。今後、支援が必要な生徒をスクールカウンセラーにつなぐ方法を手厚くしていく。
- ・生徒への対応について、随時、スクールカウンセラーや外部関係機関の専門的な見地からのアドバイスを受けている。
- ・教育相談室で過ごす生徒をきめ細かく見守る方策を考え、実践していく。
- ・関係教員とのコンサルティングの時間確保、方法を模索する。
- ・SNSを巡る問題等、新しい人権課題に積極的に取り組んでいく。
- ・人権講演会の実施をとおして、生徒の人権意識が向上していることが見受けられた。今後も様々な取り組みを行うことで人権感覚豊かな生徒を育てていく。

【教育企画】

- ・「SSH・探究News」を引き続き発行するとともに、本校ウェブページなどを活用して、探究科やSSHに関わる取組や魅力を周知することができた。
- ・探究科を紹介するためのリーフレットを作成するとともに、探究科のより詳細な活動内容や魅力を周知するため、10ページからなる冊子を作成し、中学生を対象とした「探究科体験学習」において配布することができた。
- ・小学生を対象とした「夏休みわくわく探究教室」において、小学生の保護者を対象とした本校の説明会を行うことができた。
- ・探究科の学校設定科目である「基礎探究」「発展探究」「教科探究」や教科理数の「課題研究」において身に付けさせたい力をそれぞれ明確にし、つながりをもたせながら、3年間のカリキュラムを作り実践することができた。
- ・昨年度は、新型コロナウイルス感染症により、様々な活動に制約があったものの、立命館アジア太平洋大学と連携した体験学習については、生徒が英語を用いてコミュニケーションを取るよい機会となった。
- ・主体的、対話的で深い学びを実現するため、昨年度から、普通科のNCA(総合的な探究の時間)において、課題研究を実施することができた。
- ・これまで、発展探究の授業で取り組んでいる課題研究は様々な教科が担当し進めることができた。今後、ほぼ全教員が担当することとなるため、今までの指導方法、内容等を活かしていきたい。
- ・アクティブ・ラーニング、ICT機器の使い方等、教員対象の研修会を引き続き実施し、指導力向上を図る。
- ・各企画について、前年度のアンケート結果に基づいて、内容の精選やブラッシュアップを図ることにより、教員の過度の負担にならないように配慮する。

【業務改善】

(学校の組織)

- ・各分掌で業務内容の精選、業務の引継ぎ等を意識して実施してきたが、更に進めていく必要がある。
- ・担任と副担任の役割分担は、各学年で年度当初に明確にし、頼みやすいようにする。部活動の主・副顧問も連携して助け合いながら実施していく。いずれも、業務の精選や分担をしっかりと行い、担任や主顧問の負担を軽減するように働きかけをしていく。

(日常的な業務)

- ・文書作成マニュアルの活用により、起案文書等の作成・手直しの時間を短縮できている。
- ・昨年度末に、教室の椅子を130脚更新し、古くなった椅子と取り換えた。また、トイレの老朽化等に係る対策として、洋式トイレの改修を推進した。
- ・昨年度、部活動実施状況についてアンケートを実施するとともに、7月と9月の2週間の練習時間や練習日についても調査を実施した。それらを基に、本校における「部活動の在り方」について協議してまとめ、ウェブページにもアップして周知した。
- ・職朝の連絡事項は、学校のサーバー内の掲示板に前日までに入力しているので、伝達がスムーズにできている。職員会議の内容が膨れてきているので、連絡事項は職朝の連絡に回すことを徹底していく。
- ・部活動については、生徒のためにも、ガイドラインに従って短時間で集中して行うことを学校全体として進めていく。

(働き方改革・勤務状況)

- ・昨年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止による、部活動の制限があり、時間外在校等時間の全体的な削減に繋がっている。しかし、月によっては、100時間を超える時間外在校等時間の教員もおり、健康管理、業務量管理を進めていく必要がある。
- ・定期考査や長期休業中に当たる月は、ノー残業や年休・代休等にしやすい雰囲気が出てきて、時間外業務時間は減少している。
- ・長期休業中の時差出勤の活用状況は、全体的には横ばい状態であるが、活用を促進していく。
- ・生徒の下校時間は、夏時間(3月～9月)は19時30分、冬時間(10月～2月)は19時としているが、教員の最終退校時刻を生徒の最終下校時刻の30分後とすることを再確認し、学校全体として進めていく。
- ・管理職から早帰りを促すことから脱して、各人が学校にできるだけいない時間を工夫して作る文化を構築するような雰囲気を作り、実践していく。引き続き、教職員の意識改革を進める。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

【学校運営】

(総務)

- ・行事については、各係の役割を整理・明確化し、円滑な運営につなげる。
- ・PTA活動の活性化を図る。

(情報)

- ・メール配信システムへ全員登録し、より円滑に運用をしていく。
- ・発信情報をしっかり吟味し、発信・更新回数を増加する。

【学習指導】

(教務)

- ・令和4年度入学生の教育課程を、大学入学共通テストに対応できるものにする。
- ・令和4年度からの生徒指導要録に、観点別評価を記入する欄が設けられることから、各教科が評価基準(規準)を改めて検討していけるよう、情報提供や検討委員会の開催などを行っていく。
- ・生徒に興味・関心を持たせながら、確かな学力を定着させるための学習環境をつくる。
- ・情報部と連携し、2年目となる新校務支援システムが円滑に運用できるようにする。

(進路指導)

- ・進路講演会は、似通った職種に偏らないように講演を依頼する予定であり、また、校外における研修参加は継続して実施するとともに、互見授業は取組がやや低調なため、積極的な実施を呼びかけたい。

(1年)

- ・学習記録表に記入された状況を把握し、学習時間の不足や学習習慣の身に付いていない生徒は個人面談・学年等で指導する。

(2年)

- ・授業中心の学習を継続していくとともに、早朝課外、土曜講座等の内容をよく検討し、各レベルに応じた支援を行っていけるようにする。

(3年)

- ・授業中心の学習を継続していくとともに、早朝課外、土曜講座等の内容をよく検討し、進路実現に向けて各レベルに応じた支援を行っていけるようにする。

【生徒指導】

- ・頭髪・服装検査が形骸化せず、各学年との協力の下、共通理解を図り実施する。登校指導では教員から積極的に声をかけ、マナーの向上についても機会をとらえ全教員が指導する体制を作る。

- ・いじめに関しては、未然防止・早期発見について学年・教育相談との連携を密に図るとともに、平素から生徒の活動に注意を払い、積極的にコミュニケーションを図る。また、携帯やスマートホンによる目に見えないいじめ等については、日頃から規範意識の向上を図る指導をする。

- ・防犯・防災訓練等を実施し、安心して学校生活を送ることができるようにする。不審者に対しては、下関地区高等学校等生徒指導連絡協議会との連携を図り、生徒へ情報発信するとともに、自己防衛能力の向上に努める。

(1年)

- ・学年や正・副担任が教育相談部や関係教員と密に連携を取り、問題点に対して早期の対応をして解決を図る。

(2年)

- ・課題研究や発展探究など、生徒がグループで活動する場面が増えてきているが、そうした機会を通して、コミュニケーション能力の育成を図っていく。

(3年)

- ・最上級生として、学校行事はもちろん、日常生活においても下級生を引っ張っていける集団づくりを目指す。そのために、SHRやLHRの時間を活用したり、学年集会を開くなどして、リーダーシップの養成、コミュニケーション能力の醸成を図る。

【進路指導】

- ・面談などの個別指導、校外学習への参加、進路情報発信については概ね順調であり、引き続き継続を図るとともに、生徒一人ひとりが目標よりも一段上の進路実現が図れるよう、難関大・医学部医学科志望者向け講話の拡充や、難関大向け課外講座開講へ積極的に取り組みたい。

- ・入試方法の多様化や大学入学共通テストの実施等を踏まえ、一人ひとりの進路希望に応じた指導ができるよう、学年団との連携をより緊密にし、担任による指導の格差が生じないようにしていく。

- ・教員の資質向上のための校外における研修は引き続き実施するが、復命をレポートにまとめたり、職員会議等で復伝することで、教員間での情報共有の徹底を図りたい。

(1年)

- ・面談シート記入等によって志望校をより明確にする。また、学年終礼・個人面談・進路諸行事・NCA等を通じて進路意識を高める。

(2年)

- ・面談などの個別指導において、各生徒に応じた進路指導をしていくために、家庭での学習時間の記録等を更に活用していけるようにする。

- ・模擬試験に積極的に取り組み、受験後の復習を徹底させる。

(3年)

- ・定期的な面談を実施することで、生徒の目標、意欲をくみ取り、1年を見通した取組への適切なアドバイスをする。

【健康・安全】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大予防に向けた衛生管理体制を構築する。
- ・「ほけんだより」などの刊行物に併せ、生徒保健委員会活動の広報活動を充実させる。
- ・日々のHR活動や委員会活動・学校行事を通じて、安全・衛生意識の定着の向上を図る。

【図書・情報】

(総務)

- ・図書館の充実を図るとともに、読書会の形を多様化し、参加者の裾野を広げるアイデアを出していく。

(情報)

- ・一人一台端末を有効に活用できるように、生徒・教員への支援を行うと共に、情報セキュリティ意識の向上に向けた情報提供と随時必要な研修会等を行う。

- ・校務支援システムの円滑な運用が図られるよう、教員への支援を行う。

【教育相談】

- ・支援が必要な生徒を早期発見するために、関係教員と定期的に会合を持つ。また、保護者とも積極的に連絡を取る。

- ・支援が必要な生徒をどのようにしてスクールカウンセラーにつなぐか、多角的な工夫が必要である。

- ・人権感覚豊かな生徒を育てるために、LHRだけでなく様々な場面での取り組みを強化していく。

【教育企画】

- ・学校設定科目である「基礎探究」「発展探究」「人文社会科学探究」及び「自然科学探究」等により、探究科の生徒に3年間を通じて「課題を発見する力」「課題を解決する力」及び「成果を表現する力」を育むことができるよう年間指導計画を適宜改善する。

- ・探究科体験学習の実施について中学校への周知に努めるとともに、内容の充実を図る。また、これにより、探究科の特色について、中学生やその保護者、教員に周知を図る。

- ・本校の教育活動が、変化の激しい社会において求められる力を育むことができるものとなるよう、SSH事業との関連を図りながら改善するため、「ユニットカリキュラム」や「リレー探究」等により教科を横断した学びや文系と理系が融合した学びを推進する。

- ・山口県立下関西高等学校探究学習生徒研究発表会を開催し、本校における探究学習の取組を全国の高等学校の教員、近隣の中学校の教員や生徒、その保護者により一層周知を図る。

【業務改善】

- ・新型コロナウイルス感染症に係る予防対策等について、組織的な対応を目指す。

- ・校内研修等を通して、教職員一人ひとりの綱紀保持意識の更なる高揚を図るとともに、連絡・相談をしながら業務に当たる体制づくりを更に進める。

- ・担任と副担任、顧問と副顧問で、常に情報交換をするなど、連携を密にするとともに、役割分担を明確にし、ホームルームや部活動を協働的に運営していく。

- ・各分掌の業務について、OJTに積極的に取り組むとともに、誰が担当してもわかるように資料や電子ファイルの整理を心掛け、円滑な引継ぎができるようにしておく。

- ・教職員の適切な業務量の管理と健康・福祉の確保のため、在校等時間及び時間外在校等時間の考え方について周知するとともに、個人面談等を通じて、一人ひとりの教職員に対して、適度な休養や心身のリフレッシュを呼びかける。

- ・生徒や学校及び教職員の実態に応じた適切な部活動運営となるよう、部活動の統廃合の検討を進める。また、部活動指導員の積極的な活用を促す。

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	学校行事の円滑な運営	・入学式、卒業式の円滑な準備と運営・業務分担の検討を行う。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・コロナ禍の中で縮小を余儀なくされたが各行事とも円滑に準備・運営ができた。今後とも全教職員で協働し、スムーズな運営を行ってきたい。	・コロナ後は単純に以前のままにするのではなく、学校行事等のスリム化、取捨選択などの見直しも必要ではないか。	B
	保護者との連携促進	・PTA役員と連携し、保護者がよりPTA活動に参加できるように方策を検討する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・PTA総会も書面開催となり、活動の機会が減少した。PTA常任委員による学校保健委員会への参加やPTA新聞の発行は無事進めることができた。	・来年度に向けて更に活動を工夫する必要がある。	B
	情報発信の推進	・メール配信システムの全員登録を目指し、より有効に運用する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	4	・メール配信システムの全家庭登録と、より多面的な運用を進めている。	・例年どおりに進めてほしい。	A
学習指導	新学習指導要領実施に向けた準備	・令和4年度新入生の教育課程を再検討し、問題を解決する。また、観点別評価が生徒指導要録に円滑に記載できるよう、情報提供や協議等を行う。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・令和4年度新入生の教育課程を再検討し、課題を解決した。観点別学習状況の評価については、来年度当初に始められるよう、協議を進めている。	・来年度からの開始に向け、しっかりと準備していただきたい。	B
	基礎基本の徹底と探究力の育成	・アクティブ・ラーニングに積極的に取り組み、確かな学力を定着させるための学習環境をつくる。	アンケートで「授業にアクティブ・ラーニングを取り入れている」の質問に対して 4:肯定的回答が80%以上。 3:肯定的回答が70%以上。 2:肯定的回答が60%以上。 1:肯定的回答が60%未満。	3	・アンケートで「授業にアクティブ・ラーニングを取り入れている」の質問に対して、肯定的回答は72%であった。コロナ禍において、大きな声を出したり、密になったりという状況にならないよう気を付けながら、授業展開を行った。	・今やアクティブ・ラーニングは、普通かつ当然の学習形態として定着していると思われる。コロナ禍で難しい面もあると思うがより効果的なものになるように引き続き取り組んでほしい。また、評価基準に数値目標を入れるなど、積極性が認められる。	B
	3年間を見通した系統的・組織的な学習指導体制の見直し	・年2回の進路講演会を実施する(1学期・2学期)とともに、教員の授業力を高めるため、研修への参加を促進し、互見授業実施を検討する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・オンラインを活用し、進路講演会を実施することができた。ユニットカリキュラムなど複数の教員による授業を互見する体制が日常的に見られた。外部研修は、コロナ禍の影響で参加できない状態が続いている。	・お互いに授業を見せ合うことが授業力を高める一番の手立てである。構えるのではなくフランクに授業を見せあう空気が必要である。	B
	新校務支援システムの円滑な運用	・昨年度から導入された校務支援システムにおいて、成績処理、出欠統計、指導要録作成及び調査書作成等の定着のため、情報部・進路指導部と連携して、マニュアルの作成や改善に取り組み、教科担当及び担任の業務を支援する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	4	・間違えやすい入力箇所は、その都度丁寧な説明を行い、周知徹底を図った。マニュアルも追加・変更しながら、より良いものにしていき、大きなトラブルが起こらないよう取り組んでいった。	・正確さを保ちながら、業務の効率化を進めてほしい。	A
	【1年】学習目標の設定と達成に向けた基本的な学習習慣の確立	・個人の学習目標の設定とその達成に向けた学年担任、教科担当による学習支援と朝学習会の継続的な実施により、学習習慣を確立するよう支援する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	4	・ICTを用いて、学習目標を設定・提出させた。早朝課外、土曜講座、アドバンスセミナー、放課後補習に加え、毎朝30分の勉強会を実施した。学習習慣が身につくよう今後も指導していく。	・一人ひとりに配付されたタブレット端末を、授業の時だけ利用するのではなく、鉛筆やノートと同じように日常的な文具として様々な場面で利用することが必要である。	A
	【2年】授業中心の学習と課外等による学力の養成	・授業中心の学習を支援し、学力差等を考慮して、朝学や課外を行う。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	4	・一年次から継続して日々の学習時間の記録、模擬試験ごとの目標得点・自己採点の点数を入力させた。学力差に対応するために、早朝課外・土曜講座・アドバンスセミナー・補講を多くの科目で実施した。授業はアクティブ・ラーニング的な要素を取り入れた展開を心がけ、ICTも活用した。	・以前にもまして生徒の多様化、学力差が大きくなっているのではないかと推測する。早め早めの対応が必要と思われる。	A
【3年】大学受験を踏まえた授業内容の充実と課外等による確かな学力の定着	・早朝課外や放課後課外、土曜講座、添削指導等で大学入試に対応できる学力を身につける。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・ICTを用いて効率的に授業を行うとともに、後半は大学受験に対応した演習問題を徹底して行った。早朝・放課後課外、土曜講座、添削指導を従来どおり実施し、徐々に学力が上昇した。本番で実力が発揮できるように指導した。	・大学共通テストは全体的に難化し平均点は下がっている。全国平均と比較したとき、例年よりも西高の下落幅が大きくなっている。個別学力試験で実力を発揮してほしい。	B	
生徒指導	基本的な生活習慣の育成	・HRや全校集会及び登校指導等、あらゆる機会を通じてマナー意識の向上を図り、時間厳守の意識を徹底する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・コロナ感染症拡大防止のため、全校集会は放送により実施した。また、コロナ禍における生活習慣・マナーについては、主にHRを通して継続的な指導を行うことにより、正しく習慣付けられている。	・教員間の指導の差が出ないように努めてほしい。	B
	自他の生命を尊重する豊かな心の育成	・様々な調査を通して、いじめの実態把握に努め、学年・教育相談部と連携し、未然防止・早期発見に努めるとともに、スクールカウンセラーやPTA等、外部関係者との連携を強化する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・いじめアンケート、生徒実態調査や生徒・担任からの情報収集により、生徒の実態を把握することに努め、教育相談部やスクールカウンセラーとも連携し、いじめ対策委員会を開くなどして問題解決に取り組んだ。	・コロナ禍の影響で心身に不調を抱える生徒が増加しているように感じるので、対策の強化をお願いしたい。	B
	危機管理意識の向上	・防災避難訓練や交通安全教室などを通して危機管理意識の向上を図るとともに、不審者情報などを速やかに生徒に知らせることにより、登下校時等の管理意識を持たせ、速やかな通報等、その対応の指導を行う。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・年3回の防災避難訓練や防犯訓練などを通して、生徒の危機管理意識の向上を図った。1年生に対する情報モラル教室や1、2年生を対象にした交通安全教室では、被害者だけでなく、加害者となり得ることも想定して、安全に対する意識を持たせた。	・緊急事態に対応できるように、日頃からの危機管理意識の向上をお願いしたい。	B
	【1年】自分を含む「個」を大切にできる心の育成	・教育相談部や関係教員と連携を取りながら、学年全体で生徒の問題解決を図る。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	4	・学年団で細やかに生徒の情報共有を行い、担任だけでなく、関係教員が協力して、生徒状況の把握に努め対応した。	・学年団として情報を共有し、意識を統一して取り組めたことは評価できる。	A
【2年】コミュニケーション能力の育成	・生徒と話をする機会を増やし、ルールやマナー、相手を思いやる行動を取ることに指導する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・担任教員による生徒との個人面談や普段からの声掛けにより、信頼関係を築くことができた。校外研修は北部九州へ2泊3日となったが、生徒は楽しむことができ、満足度が高い結果であった。ルールやマナーの指導は継続していきたい。	・学校行事で育まれる情操や生きる力を大切にするため、可能な限り行事が行えるよう工夫してほしい。	B	
【3年】最上級生として規範意識を持つことやリーダーシップの発揮	・日常生活や委員会活動・生徒会活動などでも積極的に動ける集団になるよう支援する。また、学年集会を開き、志を高く持たせたり、日常を振り返らせたりする。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・コロナ禍で学校行事に制約のある中で最上級生としての役割を果たした。配慮を要する生徒が多く、関係教員間での情報共有とともに、教員と保護者との連携が必要であった。	・自主・自律の校風の意味を意識させることで最上級生としての規範意識を育むことができると思われる。	B	
進路指導	生徒一人ひとりの自己実現に向けた支援の充実	・生徒一人ひとりの能力や適性に合った適切な目標設定ができるよう、面談などの個別指導を充実させ、進路だけでなく、総合型選抜や高校推薦型選抜を含めた大学受験に関する情報を保護者・生徒に分かりやすく伝える。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・夏冬の保護者会のための進路検討会や、生徒との面談による個別指導の充実はある程度実行できた。また、今年初めて探究活動を実績とした総合型選抜での合格者が出るなど、総合型選抜や学校推薦型選抜を含めた大学受験に関する情報を保護者・生徒に分かりやすく伝えることもできつつある。	・探究活動を実績とした総合型選抜による合格者があったことが評価できる。こうした成果を積み上げることにより探究活動への主体的な取り組みがさらに進むと思われる。	B
	3年間を見つめた継続的な進路指導体制の構築	・進路検討会等により、進路指導部と学年団が連携して指導に当たる体制を作り、指導において、担任により指導内容に個人差が出ないよう支援する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・進路指導の一環としての文理選択では学年と連携して取り組むことができた。	・現状では十分な取組がされていると思われるが、達成度4になるよう進路指導をお願いしたい。	B
	思考力・判断力・表現力の育成に向けた学習指導体制の充実	・教員の授業力や進路指導における資質向上のため、予備校や大学での研修への参加希望を支援するとともに、各学力層に応じた指導が行えるよう、模試分析や授業・課外等において各教科と連携を図る。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・コロナ禍で研修への参加が難しい状況であったが、オンラインでの研修等に参加していただけた。また、模試分析や授業・課外等において各教科と連携もある程度実行できた。	・各教員の授業力の向上と進路指導に係る指導力の向上が非常に重要である。重点課題として引き続き十分な取組を期待する。	B

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
進路指導	【1年】進路意識の早期確立	・個人面談や、NCAでの学部・学科研究、キャリアセミナーなどを通して、進路に対する関心を高めるとともに、文理選択などの機会を利用して専門的な学習分野に関する知識を得る。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・定期的な個人面談以外にも進路についての面談を適時行い、生徒の希望を引き出し、自身に考える機会を設けた。文理選択において、学年集会や参考資料の配付により、希望学部や自身に適した選択教科を考える機会を与えた。	・今後も進路意識を高める様々な取組を続けてほしい。	A
	【2年】進路実現に向けた早期の志望校決定	・個人面談等を通して生徒の進路意識を把握し、中長期的な目標を持たせる。模試に積極的に取り組ませ、受験後における復習の重要性を繰り返し生徒に伝える。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・調査や模試を分析し、各生徒の志望と成績状況について面談を行った。コロナの影響はあったが、オンラインによるオープンキャンパスや対面による大学出前講座により志望分野や大学への意識を高めることができた。	・オープンキャンパス等がオンライン参加となり、もどかしい面もあったかと思うが、目標、目的意識をしっかり持たせるよう指導を期待する。	A
	【3年】適切な志望校決定と合格に向けた具体的な取組の支援	・面談等を利用して、志望校の入試科目確認と受験までの中長期的な見通しを立てさせ、夏休みまでに復習し、基本事項が定着するようにする。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・定期調査や模試結果、志望校等を踏まえ、生徒との面談を綿密に行った。また、早朝・放課後・夏季課外をとって基礎力・応用力の向上に努めてきた。志望進路の実現につながるよう最後まで支援した。	・3年生にとっての最大の関心事であり、今後も十分な支援を期待する。	B
健康・安全	生徒と教職員との協同安全衛生管理体制の確立	・新型コロナウイルス感染症の感染防止に係る衛生管理を管理職、教職員だけでなく、さらに保健整備委員とも連携を図りながら徹底することで、校内における感染ゼロを目指す。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・新型コロナウイルス感染症防止の取組を管理職、教職員と連携を図りながら徹底できた。換気を促すポスターを保健整備委員と作成する等啓発できた。	・感染拡大防止の取組を今後も続けてほしい。	A
	生徒と教職員との協同健康管理体制の確立	・感染症に係る最新情報や学校の取組(委員会活動等を含む)を、定期発行の「ほげんだより」だけでなく、適宜公開する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・こまめに保健だよりで情報提供することができた。学校保健委員会で学校医等から指導いただいたことを保健だよりに載せ、生徒・保護者へ啓発した。	・生徒への啓発を今後も続けてほしい。	A
	生徒と教職員との協同生涯スポーツ推進体制の確立	・新型コロナウイルス感染症防止体制の中で、新体力テスト、クラスマッチ、体育大会等の体育的行事の実施方法を検討し、あらゆる状況においても、各自の健康の保持・増進を図っていき、100%実施(中止しない)を目指す。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・体育大会は、学年の人数を揃えない方式であったためやむを得ず中止し、応援団演舞と地区旗の紹介をリモートで行った。その他の行事は、計画通り実施できた。	・感染防止のための制限があるのは、ある程度仕方ないが、高校時代の授業以外のイベントを通じた交流を期待する。	B
図書・情報	図書館の充実と読書指導の推進	・計画的・系統的に図書の充実を図り、書籍の購入を円滑に進める。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・教職員と生徒のリクエストに応えることに加えて新書などは計画的に継続して蔵書を整備した。読書会もコロナ対応を工夫して実施した。ICTの導入を視野に館内のレイアウトを改善した。	・読書活動の充実を継続してほしい。	A
	成績処理等にかかわるシステムの円滑な運用	・校務支援システムの円滑な運用を図り、教務部・進路指導部と連携しながら各業務の支援をする。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・まだ問題点は多いものの、状況に応じてプログラムの修正・改善等を行い運用することができた。 ・指示書も充実し、他の分掌業務の支援をし、有効に活用できた。	・業務の効率化につながるよう運用してほしい。	A
	校務情報の共有化と個人情報管理の徹底	・セキュリティを確保しながら、より使い易いシステム運用を進めていく。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・校内LANの運用についてセキュリティを確保しつつ大過なく運用することができた。 ・情報の保護には細心の注意を払い、適宜適切な情報を提供できた。	・セキュリティに留意しながら更に活発にICTを利用していくことを期待する。	A
教育相談	教員間及び保護者との相互理解の推進	・定期的に教育相談部連絡会を行うことで、気になる生徒について意見交換をし、支援の方法を検討する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・支援を必要とする生徒に対する情報共有は教育相談部連絡会で行われ、それに基づいて関係教員との連携も円滑に進められた。 ・保護者とも緊密な連絡をとり、保護者との相互理解をすすめた。 ・特別支援教育についてはケース会議を実施し、生徒への支援につなげた。	・個々の生徒・保護者に応じ、必要な支援をお願いしたい。	B
	スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の確立	・スクールカウンセラーと情報交換を密に行い、支援が必要な生徒への援助を行う。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・スクールカウンセラーの高度な見識と技量により、効果的な相談が遂行された。 ・生徒への対応について、随時、専門的な見地からのアドバイスを受け、それを担当者へフィードバックすることでより良い実施につなげた。	・スクールカウンセラーとの連携を引き続きお願いしたい。	A
	豊かな人権感覚を育む教育の充実	・生徒の実態や時代背景に応じた幅広い人権課題に対応する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・人権啓発映画や弁護士の講演により、効果的な人権教育を行うことができた。 ・SNSの正しい使い方についても啓発ビデオで生徒の人権意識を高めることができた。	・人権教育の重要性を周知してほしい。	A
教育企画	探究科における教育活動の充実と次年度に向けた授業改善の推進	・学校設定科目である「基礎探究」「発展探究」「人文社会科学探究」「自然科学探究」等の授業において、探究科の生徒に「課題を発見する力」「課題を解決する力」「成果を表現する力」を育む取組を充実させる。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・それぞれの学校設定科目において、取組を行った後のアンケート調査では、ほぼすべての生徒が肯定的な評価を行っていた。それぞれの年次の目標に応じて3つの力を育むことができたと考えている。	・探究活動は本校教育の大きな柱だと思われるので、引き続き推進してほしい。	A
	探究科の情報発信の推進	・中学生を対象とした「探究科体験学習」や小学生を対象とした「わくわく探究教室」において、探究科の魅力を発信するとともに、山口県立下関高等学校探究学習生徒研究発表会を開催し、中学生とその保護者に探究活動の成果を周知する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・「探究科体験学習」や「わくわく探究教室」の後に、小中学生や保護者を対象として行ったアンケート調査では、ほぼすべての参加者が肯定的な評価を行っていた。さらに、12月までに10回発行したSSH・探究Newsを、機会を捉えては、中学校に送付するなどの取組を行った。また、探究科を紹介するリーフレットなどの資料を作成し、中学校に直接届けることができた。	・情報発信により、探究活動への理解と支援が期待できるので、引き続き進めてほしい。	A
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進	・担当者間で意思疎通を図りながら、「基礎探究」「発展探究」「人文社会科学探究」「自然科学探究」等の授業の改善を図るとともに、普通科の生徒を対象とした課題研究の取組が充実するよう改善に努める。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・「基礎探究」「発展探究」「人文社会科学探究」「自然科学探究」の各授業において主体的・対話的で深い学びが実現されるよう改善を図ることができた。さらに、普通科の生徒を対象とした課題研究では、クラスごとに行った発表会において、生徒同士が主体的に質問し合うなど、充実したものとすることができた。	・探究活動の実績を重ねることで、更に高度な活動が可能になると思われる。	A
	先進的な理数教育の充実等、SSH事業に係る研究開発の推進	・SSH事業で取り組んでいる「ユニットカリキュラム」や「リレー探究」を実践し、生徒に深い学びを体験させるとともに、社会や自然の事物・現象を多様な視点から見る力を育む取組を充実させる。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・多様な視点から社会や自然の事物・現象を見る「リレー探究」を行うことにより、課題を発見する力を身に付けさせることができた。さらに、「ユニットカリキュラム」を通じて生徒一人ひとりが学びを深めたことにより、課題解決力の向上を図ることができた。	・ユニットカリキュラムやリレー探究は、本校探究活動の大きな特徴といえるので、更に研究を進めてほしい。	A
業務改善	学校の組織等	・新型コロナウイルス感染症に係る対応計画を作成するとともに、組織的な対応ができるよう、全教職員で共通理解を図る。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・県の示す対応計画に基づき、本校ガイドラインを策定し、組織的な対応ができるよう努めた。	・新たな知見が次々に示されているので、情報を更新しながら適切に対応してほしい。	B
	綱紀保持意識の高揚	・綱紀保持に係る意識の高揚を図るため、校内研修や朝礼時の注意喚起を実施するとともに、チームで業務に当たる組織づくりに努める。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・職員会議で研修資料に基づく校内研修を行うとともに、朝礼時の注意喚起を必要に応じて行った。	・個々の教員の自覚を促し、綱紀保持に努めてほしい。	A
	日常的な業務	・各分掌等において、業務の円滑な引継ぎができるよう、データの整理に努めるとともに、OJTを積極的に推進する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・各分掌において、個人で業務が完結するのではなく、業務を引継ぎ観点から組織として取り組むことで、データの整理やOJTを推進する対応ができた。	・業務の引き継ぎを常に意識してほしい。	A
	分掌間の連携と情報の共有	・学校のサーバーやグループウェア等を活用した教職員間の情報共有を図り、ペーパーレス化を促進する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・タブレット端末を活用した学校評価アンケートなど、ペーパーレス化に向けた取組を行った。	・タブレット使用が業務過多になっては本末転倒であるが、使い方によっては大幅な業務改善にもつながると考える。より一層の活用促進が望まれる。	A
	勤務状況	・在校等時間報告書、年休等の取得等により、教職員の業務の実態について把握するとともに、面談等を通じて業務内容の見直し・改善を促す。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・在校等時間管理システムを活用した客観的な業務の実態把握ができた。その結果に基づき、部活の大会や行事などにより負担が多かった教員に、休養や医師による面接指導の活用を呼びかけた。	・昨今教職員の勤務については社会で注目されている。生徒が将来の目標として教員になりたいと思うような姿を示すことが出来るようにしてほしい。	B
	業務時間の改善	・生徒や学校及び教職員の実態に応じた適切な部活動運営となるよう、部活動の統廃合に係る検討会議を実施する。また、部活動指導員の積極的な活用を引き続き促す。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・準部活動指導員を活用することで技術指導の負担を軽減できた。部活動統廃合については、継続して検討中である。	・部活動統廃合は、生徒の関心も高い。丁寧に検討してほしい。	B

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【学校運営】

- 新型コロナウイルス感染症や自然災害への対応において、メール配信システムやホームページ等を活用し、適切な情報提供を行った。突然の危機的な状況にも対応できるように更なる活用を考えたい。
- 校外研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により計画を抜本的に見直すことを迫られ、対応に苦慮した。

【学習指導】

- 令和4年度以降の教育課程についての問題点は、ひとまず解決することができた。
- 学習時間を記録させたり、模擬試験毎に目標得点を掲げて受験させたりすることで、学習習慣の定着を図った(1年)。
- 授業評価においては、高い数値を示していないが、国語において入学時と比較すると模擬試験の偏差値が伸長している(1年)。
- 小テスト、週末課題を実施し、学習事項の定着を確認することに努めた。今後も粘り強い指導をしていく必要がある(2年)。
- 朝学や学習時間の記録を1年時から徹底して継続実施してきたことにより、学習習慣を定着させることができた(3年)。

【生徒指導】

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全校集会は放送となった。HRや登校指導等でコロナ禍におけるマナーの徹底などを呼び掛けることで適切な生活様式を指導できた。
- いじめアンケートや生徒実態調査及び生徒や担任からの情報で、生徒の実態把握に努め、学年や教育相談部などとも連携して問題解決に取り組んだ。
- 個人面談やアンケート等により問題を早期に見つけ、関係教員で情報共有を行うことで、組織的に対応することができた(1、2、3年)。
- コロナ禍のため、諸行事の中止及び縮小はあったが、可能な範囲で生徒に活躍の場を提供した(2、3年)。

【進路指導】

- 生徒個別の指導は、進路検討会やそれを受けての面談等を行うことで担任間の差が出ないよう配慮して行えた。
- SSHや探究活動を活かした進学先を選択できるような情報について、生徒、保護者に提供する機会を増やす必要がある。
- 文理選択の学年集会や参考資料の配付により、希望学部や自身に適した選択教科を選べるよう配慮できた(1年)。
- コロナ禍に対応した進路指導として、オンラインによるオープンキャンパスや対面による大学出前講座を活用できた(2年)。
- 朝学、早朝・放課後課外、土曜講座、添削指導等の継続により学力が付き、国公立・私立大学合格者数の結果に表れた(3年)。

【健康・安全】

- 新型コロナウイルス感染症対策について、管理職、学校医、教職員が連携を図り、保健だよりでこまめに生徒・保護者に情報提供することで徹底することができた。
- 各種検診及び新体力テストは実施できたが、体育大会は中止し、応援団演舞と地区旗の紹介のみをリモートで行った。

【図書・情報】

- 図書館の美化、蔵書の充実を図った。図書委員は読書会を企画実施し、日常の図書の貸し出しと返却の世話、毎月の図書だより発行を実施した。
- 読書活動の充実をベースに映画化された作品の原作と映像の比較鑑賞など図書室の利用の多角化を図りたい。
- 校務情報の共有化についてはセキュリティ面を確保しながら運用ができ、新校務支援システムについても使いづらさを克服しながら遅延なく業務を進めた。
- 校務用PCと指導者用タブレットの明確な使い分けを周知徹底する必要がある。新校務支援システムをより一層活用していくには、当該システムに慣れ、システム・様式上の変更・改善を働きかける必要がある。

【教育相談】

- 生徒情報の周知とそれに対する効果的な対応策を整えることができた。
- SCと教育相談部と担任等が連携し、SCの限られた面談日程の中で効果的な面談が行われ、生徒の問題解決につなげることができた。
- SSW等の外部機関との連携も取りながら、広い視点から生徒への対応が行われた。

【教育企画】

- 探究科の学校設定科目である「基礎探究」「発展探究」「教科探究」や教科理数の「課題研究」において、身に付けさせたい力をそれぞれ明確にし、つながりをもたせながら実践することができた。さらに、普通科における課題研究をカリキュラムマネジメントの視点から改善し、実践することができた。
- 新型コロナウイルス感染症を防ぐため、様々な取組の実践に制約があったものの、オンラインの活用などにより、概ね身に付けさせたい力を育むことができた。

【業務改善】

- 新型コロナウイルス感染症予防については、対応計画の作成及び対応チームの運用により、役割分担を明確にするとともに、感染者等に対する対応や周知を組織的に行うことができた。
- 業務時間については、在校等時間の把握に努め、改善を繰り返し促してきた。今後も、業務のスリム化・平準化を図るとともに、教職員一人ひとりのワークライフバランスに対する更なる意識改革が必要である。

7 次年度への改善策

【学校運営】

- ・ コロナ禍における入学式、卒業式を再点検し、改善点を明確にして次年度につなげていく。また、校外研修については業者、保護者の意見を取り入れながら慎重に進める必要がある。

【学習指導】

- ・ 観点別学習状況の評価を実施していく中で、改善点を見つけていく。
- ・ 朝学や学習時間の記録等の定着した取組を、1年次から系統的に実施する。また、生徒の自主性を尊重しつつ、生徒の多様な志望に対応した指導・支援の在り方を検討する。

【生徒指導】

- ・ 1年生に対して、新入生情報モラル教室以外にも情報モラルの研修会を実施し、他学年も含めて、SNS等の利用などICTのリテラシー教育を継続的に行っていく。
- ・ コロナ禍でも学校行事やHR活動・部活動などを可能な限り行い、その中で、協調性を身に付け良好な人間関係を構築できるよう促す。
- ・ 前向きに高校生活を送ることができている現在の雰囲気これから継続していけるよう、生徒や保護者と早めの連絡と対応を実施し、問題の早期対処を図りたい。

【進路指導】

- ・ 教育企画とも連携しつつ、SSHや探究活動を活かした総合型選抜や学校推薦型選抜の受験を増やせるよう生徒・保護者に周知していく。
- ・ 進路検討会等で生徒個別の指導を充実させるとともに、大学の情報や入試動向を把握し、生徒への面談を活用しながら、大学進学へのモチベーションを上げていきたい。

【健康・安全】

- ・ これまでの新型コロナウイルス感染状況から様々なパターンを想定し、安心・安全を担保しながら、できるだけ行事が実施できるように計画・準備していく。

【図書・情報】

- ・ 図書館の配架等の工夫や新刊を中心に書籍への興味を喚起する工夫を図る。また、図書館ならではの授業の展開を模索する。
- ・ 校内のLAN環境については新機器への更新を行う。校務支援システムについては、手作業等で対応しながらもヘルプデスクに繰り返し改善等を依頼する。

【教育相談】

- ・ 様々な問題を抱えた対応の難しい事例が増えていることを踏まえ、SCだけでなく、SSWなどの外部機関等と連携しながら早期に問題に取り組んでいく。

【教育企画】

- ・ 探究科体験学習やSSH・探究News等により、本校の探究活動を引き続き周知していきたい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症により、オンラインを活用する場面が増えてきた。引き続きオンラインを活用できるよう工夫をしていきたい。

【業務改善】

- ・ 新型コロナウイルス感染症予防については、ガイドラインの改訂に伴って、随時校内計画を見直すとともに内容等について適切に、教職員・生徒・保護者への共通理解を図るよう努める。
- ・ 部活動の統廃合を、関係者への配慮を行いながら慎重に進めていく。